

「うちの取組」

ーワーク・ライフ・バランスと人材多様性 (diversity) の促進をめざしてー

東京大学男女共同参画室

男女共同参画推進ディレクター

三浦有紀子

東京大学の概要と現状

東京大学はわが国最初で最大規模の総合国立大学であり、本郷、駒場そして柏に所在する3箇所の主要なキャンパスをはじめ、全国各地に研究教育施設を保有し、広範かつ先鋭な世界最高水準の学術研究を行っています。また、その成果を様々なメディアを通じて国際発信する一方、国際社会に貢献する人材の育成を目指し、学問基盤の教養科目から最先端の専門科目に至るまで多様・多元的な学部・大学院教育を実践しています。現在、10 学部、15 研究科の他、11 の附置研究所、全学センターや機構等を擁し、学部・大学院学生の総数は、28,000 名を超えます。

学生に占める女子比率は、学部 18.3%、大学院修士課程 23.2%、博士課程 30.9%、専門職学位課程 32.5%、教員に占める女性比率は 12.0%となっています。(平成 24 年 5 月現在)

男女共同参画の歩み

2002 年に男女共同参画推進委員会、男女共同参画基本計画策定専門委員会を設置、翌年「東京大学男女共同参画基本計画」を策定しました。学部・大学院学生と教職員について、部局別、職名別、年齢階層別といった男女人数と女性比率を掲げるとともに、女性学・ジェンダー研究関連授業の開講状況や育児・介護支援制度の利用状況、保育施設の設置状況等、現状把握をおこない、今後取り組むべき課題を明確化しました。

2005 年、次世代育成支援対策推進法に基づく「第 1 期次世代育成支援対策行動計画」を策定しました。2006 年に男女共同参画室が発足し、先に挙げた取り組むべき課題ごとの推進体制(勤務態様部会、環境整備部会、進学促進部会)が整いました。

環境整備部会ではまず、次世代育成支援に関するアンケートを全教職員対象に実施し、学内保育園へのニーズが高いことを確認、「東京大学教職員・学生等のための保育施設整備の基本方針」を提示しました。また、進学促進部会では、学部学生に占める女子比率が数年来伸び悩んでいることを問題視し、女子高校生への広報活動に着手しました。

2007 年、文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」事業採択により、男

女共同参画担当の専任スタッフが配置され、女性研究者支援相談室が開室された他、学内の意識啓発活動、保育園設置準備等が進み、2008年に本郷、駒場、柏の主要キャンパスと白金キャンパスに大学直営の保育園が相次いで開園しました。また、この年、男女共同参画室に4つ目の部会として、ポジティブ・アクション推進部会が設置されました。

2009年には少子化対策や子育て支援等に積極的に取り組む法人として厚生労働省より“くるみん”の認定を受けました。さらに、「U7“男女共同参画”に係る共同宣言(2008. 10. 1)に基づき、「東京大学男女共同参画加速のための宣言」を発表しました。

1. 教員・研究員を公募する際に、女性の応募を歓迎する旨を明示する。
2. 公正に行った評価に基づき、女性研究者を積極的に採用する。
3. 仕事と生活の調和を目指し、公的な会議は原則として17時以降おこなわない。

モデル育成事業が終了した翌2010年には、文部科学省科学技術人材育成費補助金「女性研究者養成システム改革加速」事業に採択され、2014年度までの5年間で理・工・農分野の女性研究者を43名新規採用する計画を遂行中です。

東京大学における取組

(1) 学内保育園の整備・運営

現在、東京大学は、全学の学生、教職員が利用申請できる保育園を4つ運営しています。研究者のキャリア継続支援を目的とし、特に、土曜日も開園、延長保育を夜9時まで可能にする等、研究者の保育ニーズに合致するよう運営し、研究者の卵としての学生、ポストク等にも利用しやすいよう、料金等を設定して



本郷けやき保育園

います。直営4園の他、キャンパス内には、医学部付属病院の職員を対象とした「いちよう保育園」と一般の方も利用できる保育園が2園あります。

出産・育児のため、大学院を半年間休学しました。学内保育園があったおかげで復学時期の予定が立ち、それを明確に指導教員に伝えることができたので、学位論文作成スケジュールの変更も最小限で済みました。

(学内保育園利用の博士課程修了者(女性)の声)

(2) 女性研究者支援相談室

専門相談員が、平日の午後、本郷キャンパス内にある専用個室で相談を受けており、他のキャンパスへの出張相談にも応じています。相談内容は、保育園探しやキャリア形成等幅広く、最近では男性のワーク・ライフ・バランス相談等にも対応するようになりました。

(3) 女子中高生への広報活動

理系関連部局による女子中高生の理系進路選択支援事業「家族でナットク！理系最前線」では、女子中高生や保



護者・教員を対象に、女性研究者の講演会や実験教室、理系の女子学生や女性研究者との交流会等を開催し、毎年何数百人が参加し、大変好評を得ています。また、8月に開催する高校生のためのオープン・キャンパスでは「女子学生コース」を、さらに12月には「女子高校生のための東京大学説明会」を開催しています。大学案内”Perspectives”を編集・発行、ホームページにおいてロール・モデル紹介をする等、女子生徒を意識した活動を展開しています。(<http://kyodo-sankaku.u-tokyo.ac.jp/>)

今まで東大なんて遠い存在だと思っていたのですが、今日イベントに参加して、「とにかく頑張ってみよう」と思いました。工学部に一層興味を持ちました。

(イベントに参加した女子生徒の声)

(4) 勤務態様の向上

教職員・学生向けに、各種支援制度の概要をわかりやすく解説したワーク・ライフ・バランス支援ハンドブックを発行する他、こども未来財団のベビーシッター育児支援割引券を発行し、ベビーシッターを利用する教職員を支援しています。



(5) キャンパス環境の整備

トイレ、休憩室、外灯等、キャンパス・部局単位で状況調査を実施しつつ、適宜改修・整備を進めています。

(6) コミュニティー活動・男女共同参画意識啓発

教職員・学生等、本学の女性すべてが利用できるコミュニティーサイトFREUTを運営する他、「研究者のキャリア形成」「男性の育児」等のテーマ設定をして、小規模会合“FREUT ミーティング”を開催し、同じ問題を抱える人たちのコミュニティー形成を支援しています。また、関連

の講演会、シンポジウム等の主催、共催、後援等を積極的におこなっています。

(7) 女性研究者養成計画事業

「東京大学男女共同参画加速」にかかる女性研究者養成計画の学内公募をおこない、部局単位での提案を募集しました。いくつかの観点で厳正な審査をおこない、優れた計画であると認められた部局には、女性限定の教員採用枠が総長裁量により追加された他、各部局では独自の養成計画のもと、数値目標を定める等の努力がなされています。

(8) 女性研究者への研究活動支援

先に述べた「女性研究者養成システム改革加速」事業の一環で、理・工・農分野の女性研究者が新たに採用された場合、初年度に年間150万円を、次年度以降2年間に100万円／年を、スタートアップ支援経費として支給するとともに、メンター教員を2名ずつ配置しています。さらに、当該分野の女性研究者へ学会出張旅費や論文投稿時の英文校閲費用を補助しています。また、育児・介護に加え、公務を抱える女性教員には、事務補助、実験補佐等のサポート要員を雇用する経費を一部補助する制度もあります。

今後に向けて

この10年ほどで、施設・制度の整備や意識改革は非常に進んだ一方、教員に占める女性比率は、8.2%(平成15年)から12.0%(同24年)、学生に占める女性比率は学部学生で18.3%(同15年)から18.3%(同24年)と未だ低いままです。大学間国際交流の場でも、しばしば議論の的となっているこの問題に対し、解決に向け継続的に努力を重ねていきます。